【第１回滋賀県立高等学校在り方検討委員会　開催概要】

■開催日時　　令和８年１月２３日（金）13 時 15 分～15 時 10 分

■開催場所　　滋賀県庁　東館７階　大会議室

■出 席 者　　出席委員 18 名　朝比奈委員、生駒委員、太田委員、加藤委員、門田委員、蒲生委員、岸田委員、小玉委員、炭谷委員、竹林委員、中井委員、中野委員、永浜委員、原委員、藤田委員、森下委員、安田委員、吉嶋委員

滋賀県教育委員会　村井 教育長、上田 教育次長、北川 教育次長、岸村 高校教育課長、浅岡 魅力ある高校づくり推進室長

（関係課：教育委員会事務局各課、高等教育振興課、子ども若者政策・私学振興課
財政課財産活用推進室、行政経営推進課、みらいの農業振興課）

■傍聴者数　　６名

■開催概要

（１）委員長の選出

原　清治　委員（佛教大学教育学部教育学科教授）を委員長に選出

（２）職務代理者の指名

森下　あおい　委員（滋賀県立大学副学長）を職務代理者として指名

（３）村井教育長より諮問

「児童・生徒数の減少が見込まれるなかでの県立高等学校の在り方」

①　これからの本県高等学校教育の在り方

②　県立高等学校の配置の在り方

（３）協議「これからの滋賀県高等学校教育の在り方について」

＜委員からの主な意見＞

- 私立高校との比較の視点が多くなるが、そればかりに終始するのではなく、県立高校としての存在意義を改めて検討することもこの会議の役割の１つではないか。
- 今の高校生たちがいろいろな地域活動に取り組んでいることを羨ましく思う。高校を通して地域と関わる活動を積極的に取り入れることで、地域に愛着を持ってもらえ、滋賀の子どもたちが豊かに育つと考える。
- 不登校や外国にルーツのある子どもなど、様々な背景を持つ子どもたちの教育ニーズに応えて、学びの機会を確保することは、これからの共生社会の実現に向けてとても大切なこと。そのためにも、多様な生徒への理解と指導力、専門家や関係機関との連携強化が大切。

- 人とのコミュニケーションをとりながら行う体験的な学びは、高校生でも大切。少しでも多くの人や社会と関係性を築く手立てを考えることが大事。
- 高校は依然として「集団的統制」が強い。そうではない、ゆるやかな高校があってもよい。
- 産業構造の変化に、どれだけの高校が応えられているのか。農業高校、工業高校以外にも、情報化に対応するような高校、産業界からのニーズに対応ができる高校が必要。
- 生徒の居場所になる高校が必要。私学の方が設備、環境が充実しているが、県立高校はどのように差別化していくのか。無償化拡大によって、県立高校がすべり止めのようになっていくのではないか。
- 高校生にGoogleなどのアカウントを1人ひとりに用意し、紐づけることによって、いろんな情報にアクセスできるようにしてはどうか。
- 若い世代の時から「世界と戦える人材」を育成する必要がある。そのためには、①海外留学（特に成長が期待できるインドなどへ）、②県内企業への高校生インターンシップ、③ＡＩの活用。インターンシップやAI活用には、産業界の方に臨時講師をお願いしてはどうか。
- 親の立場からしたら、子どもに幸せになってほしい、一人で生きていける力をつけてほしい。これからは正解のない課題に向き合っていく時代。自分で考える、自分で答えを見つける力を高校で身につける必要がある。
- 高校の環境整備も大事だが、通学の環境整備のことも考える必要がある。
- 企業としては「人間力」がある人材を求めている。ＡＩやデジタル技術が急速に進化していくなかで、人が担う役割は何かを明確にしていく教育が今まで以上に求められている。リアルな場でしか得られない学びの価値が重要になっている。五感を使った体験や、多様な人・社会、実際の出来事と関わる中で生まれる気づき、失敗、心を動かされるような感動体験など、デジタルではできない、人としての基盤を作る学びが重要。
- 海外など異なる環境に身を置くことで学べることが多いので、いろんな選択肢があるのが良い。
- 私立に行くと手厚く面倒を見てくれるがお金がかかる。公立に行くと授業料は安いが、塾に通う必要が出てきて、結局お金がかかる。
- AIの活用は、停電などが起こると、使えなくなることも考えておく必要がある。
- 先生の待遇をもっと良くしてあげてほしい。
- 高島市の勉強ができる子は、市内の高校では物足りなくて、膳所や比叡山高校に通ったりしている。各地域に、しっかりと勉強ができる学校、引っ張っていくような学校があってもよいのではないか。
- 保護者の間では、公立に行っても塾に行くことで、私立と同じようにお金がかかるという話がある。学食があるといった理由からも私立が選ばれていると思う。
- 他県では、公立高校の第2希望まで出願できる。滋賀県でも受験システムを見直してもいいのでは。
- キャンパス制にするのが良いと思う。長浜や高島に、膳所高校のキャンパスを作ってはどうか。
- 地域と連携することはすごく大切ではあるが、「探究」を強く押し出しすぎて、高校生が深堀りしないままに、地域や企業に行くことで、結果として、高校と地域・企業の隔離が広がっているのではないか。そのためにも、地域としっかりと産学連携ができるコーディネーターが学校に1名ちゃんといるということが必要だと思っている。
- 保健室や図書室以外に、高校生の居場所となるスペースを一室つくることで、子どもたちが学校に行く理由にしやすくなるのではないか。
- 大学生でしんどさを感じている子が多くなってきている。自分で立つ力はもちろん大事だが、「協働」がしんどい生徒もいる。「協働」から解放してあげてほしい。
- 「多様な」という言葉が便利な言葉として乱用されていると思う。100人いれば100の個性がある。「多様な」ではなく「一人ひとり」でいいのではないか。
- 私立と公立は、依存するところは依存し、競うところは競うような関係が必要ではないか。

● 高校では、学びに向かう力を育てる、というところも基本の一つにあるのではないか。どういう経験をして、その後の自分の道を拓いていくか、そういうことが高校の時からできると良い。

● 小さな町では県立高校が地域に担う役割は大きい。

● 学びに関しては、小・中・高・大・社会が一体化して、考えていく必要がある。それぞれの学びの役割は何か、子どもたちを社会に送り出すにあたって、どの段階でどういうことをするのか、ということをもっと共有すべき。

● 子どもたちの学びを支える人材（教員マインド、スキル、人数）と、環境整備が必要。

● これからの高校教育の在り方として、①設置学科での学びを地域に還元する活動の充実、と②多様な背景のある生徒への丁寧な支援、を期待したい。

● これからの高校の配置の在り方については、大胆な改革の提案を望む。それぞれの高校が学校名を残したいがために現状維持を望むのではなく、大学のように校舎は分散しているけれど、一つの総合的な高校として調和していると可能性が広がるのではないか。

＜次回の議論に向け、委員長より求めのあった資料＞

① 県内のどの地域の子どもたちは、どこの高校に進学しているのか、また、地元地域の高校に進学している割合がどうか、などといった生徒の動向が分かる資料

② 大学生や高校生などへの意見聴取を進めていただき、その意見をまとめた資料

③ 他都道府県での高校改革の取組事例

＜その他、委員長より＞

○ 委員会における議論をしている間に、国の政策がどんどん進んでいくと、後手後手となるので、委員会の結論を待たずに、教育委員会として、必要な取組は進めていただき、共有をお願いしたい。

○ 第２回以降はテーマを絞りながら議論したい。

■次回（第２回）開催日程

令和８年３月３０日（月）９：３０～１１：３０　　県庁東館７階大会議室

	開　催　時　期	協　議　内　容　等
第１回	令和８年１月 23 日（金）	○委員長の選出、職務代理者の指名 ○諮問 ○審議の進め方 ○協議「これからの滋賀県高等学校教育の在り方について」
第２回	令和８年３月 30 日（月）	○論点設定による審議
第３回	令和８年５月～６月頃	○論点設定による審議
第４回	令和８年７月～８月頃	○論点設定による審議
第５回	令和８年９月～10 月頃	○答申（素案）
第６回	令和８年 11 月～12 月頃	○答申（案）